名古屋外国語大学 国際経営学部・現代国際学部 同窓会報

NACION vol.5

2008年12月15日発行

発　行：名古屋外国語大学国際経営学部・
現代国際学部同窓会事務局
〒470-0197愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
TEL：0561-74-1111（大学代表）
HP：www.nacion.jp
SNSｻｲﾄ：www.nufsplus.net
Email：info@nacion.jp

第４回総会及び懇親会　ご参加ありがとうございました。

2008年5月31日（土）、第4回総会及び懇親会を開催し、約40名の会員と約10名の教職員の方々にご参加いただきました。

当日は名古屋市内のレストラン「Club H（クラブ アッシュ）」に会場をお借りし、11時30分より総会を開催しました。総会では、2007年度決算報告、2008年度予算案審議を行い、全会一致で承認されました。また、新たに「慶弔等に関する規程」を作成し、その内容についても全会一致で承認されました。（会則、規程は会報13、14ページに掲載。）その後、役員の交代、外大20周年記念品の贈呈、NACIONスカラーシップ2008年度受給者について報告を行いました。

総会後、12時00分より同会場にて懇親会を開催し、まず始めに水谷修学長よりご挨拶を頂戴しました。そして玉井俊紀学部長による乾杯の音頭で宴が始まりました。しばらくの会食後、ご出席いただいた教職員の皆様に一言ずつご挨拶を頂戴しました。ご参加いただきました教職員の皆様、誠にありがとうございました。

その後、余興として昨年も大好評だった「UMACHO（ウマッチョ）」のパフォーマンスが披露され、会場は大変盛り上がりました。懇親会の最後には恒例の大抽選会が行われました。ニンテンドーWiiや松阪肉など豪華景品が用意され、当選した人から歓声があがるなど、参加した皆様には大変喜んでいただけたようでした。

また、当日はちょうど名古屋外国語大学で四川大地震・ミャンマーサイクロン被害への募金活動中でしたので、ご参加いただいた会員の皆さまからも多数のご協力をいただき、同窓会からも寄付を行うことができました。ご協力ありがとうございました。

2009年の総会・懇親会は母校の名古屋外国語大学での開催を予定しています。来年は数年に一度の会員全員無料招待を実施しますので、まだ一度も参加したことの無い方も、この機会にぜひ参加してみてください。母校が会場となりますので、懐かしい場所、懐かしい顔にたくさん出会えると思います。

第４回総会及び懇親会次第

日　　時：2008年5月31日（土）11：30～14：00
会　　場：Club H［クラブ アッシュ］（名古屋市内）
総会次第：
1．開会の辞
2．同窓会長挨拶
3．議　事
①役員の交代について
②2007年度決算報告
③2008年度予算案
④会則、規程の作成及び改正
⑤その他
4．報　告
①外大20周年記念品の贈呈
②スカラーシップ受給者
5．閉会の辞

懇親会次第：
1．開会の辞
2．名古屋外国語大学長挨拶
3．現代国際学部長挨拶（乾杯）
4．余　　興
5．大抽選会
6．同窓会長挨拶
7．閉会の辞

ご出席いただいた教職員の皆様（順不同）

水谷　　修（学長）	玉井　俊紀（学部長）
蔵田　敏明（学生部長）	権　　泰段（教授）
水野　積成（教授）	木村　友保（教授）
浅野　輝子（先生）	熊田喜三男（教授・退任）
武田　修治（事務局長）	浅野　昌章（学生課長）

大抽選会景品一覧

①ニンテンドー Wii
②ニンテンドー DS Lite
③ルクルーゼ ココットロンド
④最高級松阪肉（1万円分）
⑤ペアマグカップ（ケイトスペード）
⑥ロクシタン ボディケアセット
⑦コーヒーメーカー（サーモス）
⑧ガンダム プラモデル
⑨傘（エド・ツワキ）
⑩Dr. ブロナー マジックソープ　×4
⑪NACION ペンセット　×3
⑫NACION 電卓付き時計　×2
⑬同窓会卓上時計　×2

懇親会には、大変よくあたると噂の占い師さんにもお越しいただき、順番待ちが途切れない程の大好評でした。ご都合が合えばまた次回もお願いしますので、お楽しみに。

同窓会クイズに挑戦！！　景品を用意してお待ちしていますので、どしどしご応募下さい。（⇒ p. 11）

顧問の就任

同窓会の再始動当初より同窓会運営にご尽力いただいている植松千里先生を、2008年度より同窓会の顧問としてお迎えすることとなりました。植松先生にはこれまでも運営方針等について多々お心を配っていただきましたが、これからは同窓会顧問としてお知恵をお借りし、共に同窓会を盛り上げていきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

同窓会の顧問就任に当たって

同窓会顧問　植松　千里　先生

このたび本学同窓会役員会のご推薦をいただき、会の顧問に就任させていただきました。なぜ私をと思いましたが同窓会の活動にはかねがね格別の関心をもってきていたからだと思います。

私は本学部で平成8年4月より10年間、労務管理論と国際労務論を中心として講議並びにゼミ指導を担当し、平成18年に退任しました。在任中就職委員会やインターンシップ委員会の委員長をしていましたので、授業以外に学生の進路指導にあたり比較的多くの学生諸君と会う機会があり、卒業後のキャリア指導には今でも大変関心を持っています。そのためこれまで同窓会の会合に出席することも多く、また会の運営に当たって学生部の方々とともに本会役員諸氏に助言をしてきました。退任後、私は東京に移り住んでいますが、幸い中西学園理事・評議員会のメンバーの一人として会合や行事に参加するため日進キャンパスに定期的に顔を出していました。多くの卒業生諸君より頻度多く学内を訪れ大学組織の変更や、増改築で発展・変貌しいていくキャンパス事情も承知しているつもりです。こうして自然に今回、顧問の役割をお引き受けすることになったのです。

ところで、一般的に大学の同窓会はその運営や活動がマンネリズムに陥るものです。選ばれた一部の役員・幹事あるいは大学の担当部局スタッフの方々だけが中心になって財務の管理・行事の企画そして定例の年次総会の運営・進行をすることが多く、一般会員はどうしても無関心になり会合の参加も消極的になってしまいます。そしてやがて一部の人達の限られた交流会になっていってしまいます。しかし大学同窓会の存在意義は仲良しクラブではなく、その成長の過程で会員の懇親・友好から交流・啓発そして社会的活動への参加･行動へと活動内容が成長しでいくものだと思うのです。すでに本学同窓会の活動もその道を歩み始めているように思います。すべての大学同窓会がそのように進化しなければならないというものではありませんが、同窓の社会人集団として皆がそれを望むならば、それが最も望ましいことですし、真の同窓会の存在意義があるというものです。その場合会員の活動は強制されるものでなく、会に対する愛情を忘れず社会人として一人ひとりが会の活動に責任を持って参加し、自らが成長するために役立てていくのが理想だと思うのです。

また平成19年度の同窓会の水谷修学長ご挨拶の中では、「本学の同窓会は母校にこうあってほしいと注文や提案のできる組織体になってほしい」という趣旨のお話もありました。母校のこうした期待に応えることもわが名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会が目指せねばならぬところだと言えます。このように大学側の期待と同窓生の願いが重なるとすれば、お互い何をどうすればよいかを皆が考えねばならぬと思いました。

同窓会を一部の人達の仲良しクラブにとどめることなく、多くの会員が望む「自分達の成長と社会に役立ち行動する同志の会」に育てていくよう努力してみませんか。そのためには皆さんの活動や発言の積極的な参画がいっそう必要なのです。

顧問として、そんな願いをかなえる同窓会運営のお手伝いをしたいと考えています。

（完）

役員の交代

下記一覧のとおり、武原啓子さん（前会長）、内門はるかさん（前会計）が2007年度をもって役員を辞任されましたので、幹事の中から新たに、石井恵美子さん（会計監査）、登立洋平さん（会計監査）を新役員として迎えました。また、それに伴い役員内で役職移動も生じましたので報告いたします。

武原啓子さん、内門はるかさんには役員在任中、多々ご尽力いただきまして誠にありがとうございました。諸事情により役員は退かれましたが、これからは幹事としてご協力いただけるとのことですので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

本年度より、石井恵美子さん、登立洋平さんを新役員に迎え、新たなメンバーで同窓会運営に尽力してまいりますので、会員の皆さま、関係の皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2008年3月まで				2008年4月から		
会長	武原 啓子（1期）	[辞任]	⇒	中村 憲広（2期）	[副会長より移動]
副会長	中村 憲広（2期）		⇒	岩出 朋子（2期）	[会計監査より移動]
副会長	畑 恵（2期）		⇒	畑 恵（2期）	[再任]
事務局長	浅井 恭子（1期）		⇒	浅井 恭子（1期）	[再任]
書記	横井 万里子（5期）		⇒	横井 万里子（5期）	[再任]
書記	吉田 正幸（6期）		⇒	吉田 正幸（6期）	[再任]
会計	瀧 浩史（1期）		⇒	瀧 浩史（1期）	[再任]
会計	内門 はるか（6期）	[辞任]	⇒	近藤 健太（8期）	[会計監査より移動]
会計監査	岩出 朋子（2期）		⇒	石井 恵美子（1期）	[新任]
会計監査	近藤 健太（8期）		⇒	登立 洋平（10期）	[新任]

先生のあしあと

国際経営学部・現代国際学部の教員から同窓生へ、社会人の先輩としてメッセージや教訓を頂戴しています。

ジャーナリストからの転身

内　田　忠　男　教授

私には「名古屋外国語大学教授」のほかに、もう一つ「国際ジャーナリスト」というタイトルがあります。二枚鑑札のようなものですね。大学を出て新聞社に入った時から数えると、もう47年近くにもなりますから、ジャーナリズムでの暮らしが身体全体に染みついて、容易に取り除けるものではありません。そこで、この長いジャーナリズムの世界での経験を少しお話しようと思います。

新聞社の入社試験に願書を出した時には、さしたる覚悟も出来ていなかった私ですが、受験生のあまりの多さ、倍率のあまりの高さが、生まれながらの負けず嫌いを大いに刺激しました。受けた新聞社は、私を含めた家族中が大嫌いなプロ野球チームを持っており、その関係で、我が家では一度として購読したことのない新聞でしたが、いざ入社試験が始まると「負けてたまるか」と言う競争心が高まりました。その一方で、「これだけ受ける学生の数が多けりゃ、落ちても当然」という気楽さがあったのも事実です。そうした無欲は、しばしば好結果を生むものです。難関とされた入社試験を突破して、新聞記者としての人生を歩み出すことになりました。

何分にも、さしたる覚悟もなく受かってしまったのですから、全国紙といわれる新聞社が、入社早々の新人記者を全員地方支局に出して、記者としての教育をするという、当たり前のことすら知りませんでした。オリエンテーションの日程がすんで、いきなり言い渡されたのが「福島支局勤務」でした。しかも「明日中には現地に到着せよ」との厳命です。途方に暮れる暇さえありません。現地に着いてみると、私より2年先輩の本社採用記者が二人もいました。ということは、ここに少なくとも3年は置かれる――警察回りから始まって記者のイロハの修業が始まる中で、早期脱出への手段探しが一番の関心事になりました。

まず、目前に与えられた任務と全力で取り組み、他社を圧倒する優れた記事を書くこと、これは当たり前です。次に、2年後に開かれる東京オリンピックを視野に入れ、それまでに東京に帰る方策を探すことでした。幸い、私は英語を話せましたし、高校と大学で第2外国語として学んだドイツ語も、普通の会話ならこなせる自信がありました。当時はまだ「売り物」に出来た語学力を示すことで、戦後日本最大の国際行事であるオリンピック取材の一翼に加えてもらおうと決意したのです。

この思惑は見事に的中して2年後の4月「東京本社運動部勤務」の辞令を手にすることが出来ました。10月10日、私は、国立競技場の記者席にいました。分秒の違いもなく整然とかつ華麗に進行する開会式を見ながら、私は幸福感に包まれていました。私は、先の戦争を肌で覚えている最後の世代です。全てを無に帰した戦争に負けて19年、我が祖国がよくぞここまで復興出来た、その証を見るような開会式の成功でした。私を挟むように座っていた外国人記者から「congratulations！」と大きな手を差し伸べられた時、私は不覚にも落涙していました。

オリンピックが終わると、もう運動部に未練はありません。社会部に移りました。サツ回りから警視庁詰めという勤務をフルスピードで駆け抜けて「遊軍記者」になりました。遊軍といっても、ただ遊んでいるわけではありません。社会部というのは切った張ったの事件や事故を扱うだけでなく、社会現象全般を取材出来る部署です。遊軍記者には自分が関心の高いテーマを追い続ける自由があります。

そこで私は「国際化する日本」と環境問題、消費者問題に主力を注ぐことになりました。テーマがテーマですから、外国に出張する機会も増えてきました。中でも思い出深いのは、1972年の初夏、スウェーデンの首都ストックホルムで開かれた第1回国連人間環境会議の取材を任されたことです。いまでこそ「地球温暖化」が大きな関心事になっていますが、36年も前の当時は、環境問題にやっと光が当てられ始めたばかりでした。会議を取材した後は、単身西欧諸国をローミングして、各国の環境保護政策を取材して回りました。

ジャーナリストという肩書きに「国際」の2字が加わるようになったのは、この頃からの海外取材のお陰です。1975年には外報部という部署に移され、すぐにロサンゼルス支局に派遣されました。紙数の関係で理由は省きますが、それから2年半後、私は新聞社を退社します。ロサンゼルスに残って、週刊の邦字紙を出し始めたのですが、そこへテレビ局から思い掛けないオファーが来ました。「ニューヨークに移って、報道番組のキャスターを務めて欲しい」というのです。1980年10月、私は、活動の場を活字から電波媒体に移すことになりました。

1988年に東京に呼び戻されて、番組を持たされましたが、月～金でスタジオに座らされ、自分が直に見聞きしていない事柄を伝えるのは苦痛でした。1993年に自ら願い出てニューヨークに帰りました。名古屋外国語大学から「是非に」と強いお誘いを頂き、あまりの熱意に心動かされて帰国を決意した2006年春まで、13年間ニューヨークで暮らしました。ロサンゼルスに5年、ニューヨークに通算21年、併せて26年間のアメリカでした。むろん、その間にもニュースの発信源となった各国に繁く足を運びました。冷戦時代の東欧での取材を通じて「社会主義はもう持たないな」と直感して、その旨リポートしたことなど、思い出は尽きることがありません。

（2008年10月 記）

内田　忠男　教授　プロフィール

名古屋外国語大学・大学院教授／国際ジャーナリスト
同時多発テロやイラク戦争など、突発的な重大事件に直面した際のリポートは状況把握スピード・情報の選択・冷静な分析に基づくコメントの構成・抑制の効いた文言・的確な解説･･･と言った面で他の追随を許さない。

略歴
1962年　慶應義塾大学経済学部卒業、読売新聞社入社
1978年　U.S.-Japan- Business News社の副社長・編集主幹
1980年　テレビ朝日報道番組ニューヨーク側キャスター
1988年　帰国、テレビ朝日系番組のメインキャスター
1993年　ニューヨーク駐在、国際問題専任キャスター
1999年　テレビ朝日アメリカ Inc. 取締役就任（2003年退任）
2001年　同時多発テロ事件報道でテレビ朝日社長特別賞受賞
2006年　名古屋外国語大学現代国際学部教授に就任

現在、中京テレビ「Newsリアルタイム」、名古屋テレビ「どですか！」、毎日放送「ちちんぷいぷい」に出演

同窓生のいま

国際経営学部・現代国際学部の教員から同窓生へ、社会人の先輩としてメッセージや教訓を頂戴しています。

今回はシンガポールで働くお二人です。日本国内はもちろん海外でもたくさんの同窓生が活躍しています。

異国での日常生活

代田 喜之 さん（1期）

日本から約6,000km離れた赤道直下に位置し、国土面積は大体東京都23区と一致、人口は約430万人、その7割が中華系、2割がマレー系、残り1割がインド系＋その他永住者や駐在員を含む外国人。2008年9月にはF1開催（初の夜間レース）、来年2009年10月にはカジノオープンと益々活気に溢れる東南アジア（アセアン）諸国のリーダー的国家。それがシンガポールであり、今私はそこに在住しています。駐在員歴も早4年目に入ろうとしており、時の流れの速さを痛感する毎日です。日本のように四季は無く年中真夏の為、Tシャツ、短パンが普通。季節感覚や日本では当たり前の四季折々のファッション感覚からも遠のいてしまっている自分にふと寂しさを感じる時があります。

当時新設であった国際経営学部に第1期生として1994年に入学し、卒業から既に10年の歳月が流れました。多くの仲間とのキャンパスライフ、バレーボールにも明け暮れ、様々な経験、苦労を重ねたあっという間の4年間でした。卒業後は様々な不安を抱えながら現在の会社へ就職し無我夢中の日々を送り、その甲斐あってか入社当時から希望していた海外勤務の夢を掴むことが出来ました。赴任後約2年間は購買部門の責任者として海外関係工場からの自社電子部品の購入、在庫管理、及びカスタマーサービスを担当し、この2008年3月からは営業部門へ異動しシンガポール国内は元より近隣諸国（マレーシア、インドネシア他）へ毎日出張する日々を送っています。

異国で日本とは違う日常生活を送る中で、やはり何に於いても人と人との繋がりがベースにあります。ビジネスでは「会社 対 会社」の付き合いですが、その基礎は担当者同士、或いはトップ同士という“人の繋がり”であり、会社も人が血となって巡っている生き物です。その繋がりを結ぶツールが言葉（コミュニケーション）であり、この国では英語、マレー語、中国語（上海語、北京語、広東語）がオフィス内でも飛び交っています。ここで、大学で学んだコミュニカティブ・イングリッシュやマーケティング論が大いに役立っています。

この東南アジア（アセアン）エリアは様々なビジネスが存在し、その中心となっているのがこの国際都市「シンガポール」です。港のコンテナ取扱量世界一、チャンギ国際空港をハブとして世界各国へアクセスしやすく、インフラも整備され、且つ治安が良い、という好条件がそれを物語っています。マーケットは絶えず変化し、そのスピードも予想以上に速く、御客様のニーズも益々高度化、多様化しています。その激戦区の中でどう生き残るか？その解に少しでも近づく為に、現地のメンバーとのコミュニケーションをベースに大学時代に身につけた知識・能力を活用しています。非常に責任が重くタフですが大変やりがいを感じますし、海外駐在が出来て本当に幸せです。しかし、これは私個人の努力ではなく、周りにいる両親や会社の同僚・先輩・現地スタッフ、友人、知人様々な人の理解、支えがあって今の自分があるという事を決して忘れてはならないといつも自分自身に言い聞かせています。

一方、仕事ばかりではストレスも溜まってしまいますので、プライベートの時間も大切にしています。大好きな海を求め各地へ週末出かける時もあれば、時には御客様とのゴルフもあります。そのゴルフが大切なコミュニケーション・ツールとなり、グリーン上こそが更に重要な、貴重な情報交換の場ともなります。また、日本ではなかなか出来ない各社の社長、役員クラスの方とのコミュニケーションが出来ることも自分にとっても貴重な経験となっています。

長くなりましたが、最後に現代国際学部（旧 国際経営学部）のこれからの益々の御発展を祈念申し上げます。チャンスはいつでも、どこにでも、いくらでもあります。

（2008年9月 記）

南国（何国？）生活

大和田 尚志 さん （4期）

私は2001年に大学を卒業して、ソニーの物流子会社であるソニーサプライチェーンソリューション株式会社に入社し、約3年間を海外にあるソニーのブラン管工場向け生産設備の調達・輸出業務に携わりました。そして、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントに1年間常駐して、プレイステーションの海外向け修理部品業務のシステム移管と業務改善プロジェクトを担当しました。その後、航空貨物部門に約3年間在籍し、1年間を成田国際空港近郊のオフィスで航空貨物の混載実務に携わりました。

昨年の7月に、予てからの希望であった海外赴任のチャンスを得て、現在シンガポールに駐在しております。赴任後の半年間は、ソニーのバッテリー工場立ち上げの為、日本からの生産設備の受け入れや、工場内物流の体制を整えました。現在はソニー製品の物流担当となり、約15,000㎡の倉庫で、約50人のスタッフを抱え、シンガポール国内のみならず、アジア各国向けの販売をサポートしております。

私が所属をしているSony Supply Chain Solutions Singaporeには約130名のスタッフが働いています。しかし日本人は私一人の為、仕事中に日本語を話す機会はありません。スタッフの大半を占める中華系シンガポール人は、普段は中国語を話し、英語は「シングリッシュ」と呼ばれる独特の英語を話す為、慣れるまでにはかなり時間が掛かりました。また、英単語もイギリス英語を基本としている為、聞きなれない単語が出てきたりと戸惑う事もありましたが、今ではローカルスタッフから私の英語は「Typical Singlish」と言われる程に「シングリッシュ」が上達してしまい、欧米の方と話をするのがちょっと怖い今日この頃です。

社会人となり、また海外赴任をして感じる事は、国際経営学部の教育内容はとても役立つものばかりであったと思います。外国語大学ならではの英語による経済や経営、会計などの教科と共に、コミュニケーションに重点を置いたCommunicative Englishは大変有意義でした。授業を通し、海外の方と話をする事に慣れ、自分の意思を言葉で伝える訓練が出来た為、留学を経験しなかった私でもすぐに国際社会で仕事をする事が出来ました。それでも、この1年間は海外での生活と仕事の両立を求められた大変な時期でしたが、この経験はきっと今後の人生に幅を持たせてくれると確信しています。

最後にプライベートについてお話しをすると、同級生に先駆けて26歳で結婚をしてから早4年、現在は妻とシンガポールで購入したミニチュアダックスと共に常夏を満喫しています。（本当は四季が恋しいですが・・・。）また、赴任後に日本人駐在員の必須スポーツであるゴルフを始めましたが、さほど上達が見られないまま付き合い程度に楽しんでいます。祝日の少ないシンガポールではありますが、滞在中できるだけ多くの近隣諸国へ旅行をして、東南アジアの文化を肌で感じたいと考えています。今後チャンスがあれば欧米へ赴任が出来るように、「Singlish」ではなく、「English」に磨きをかけたいと思います。

（2008年9月 記）

同窓会事務局では、「同窓生のいま」へのご投稿を随時受け付けています。現在の近況等を1,200～1,500字にまとめて、写真とともに事務局までお送りください。（文章と写真はなるべくデータでお送りください。）

ご投稿いただいた内容は順に会報に掲載させていただきます。尚、掲載させていただいた方には謝礼として3,000円分の商品券を進呈いたします。多数のご投稿をお待ちしております。

お問い合わせ・送付先 → info@nacion.jp

◇現代英語学科 2008 年度これまでの取り組みとこれからの予定◇

1）フレッシュマン・キャンプ

今年度も、三重県合歓の郷にて 4 月 3・4 日の日程で現代英語学科のフレッシュマン・キャンプを実施しました。

このキャンプは、新入生が大学生活にスムーズに入っていけるよう、特に教職員・在校生と新入生の交流を重点においたものとなっています。昨年度から、上級生にキャンプ運営のお手伝いだけでなく、キャンプの主要プログラムの運営もやってもらっています。そのおかげで、このキャンプが新入生にとっては相談可能な上級生の知り合いができるきっかけとなり、上級生にとっては新入生へのアドバイスなどサポートを通して、自らの成長の機会となっているようです。

写真：上級生が新入生に説明をしている様子

写真：引率のヒューワー先生と

2）海外研修・留学

【夏期短期研修】

8 月 3 日～ 9 月 1 日の日程で、現代国際学部の 38 名がバンクーバー・アイランド大学（カナダ）での語学研修に行ってきました。

【春期短期研修（2009 年 2 月及び 3 月実施）】

春期研修は、オーストラリアン・カソリック大学（オーストラリア）及びワイカト大学（ニュージーランド）の 2 大学にて行われます。

【中期留学】

9 月 27 日～ 12 月 12 日、現代国際学部の 14 名がマンチェスター大学（イギリス）へ留学中です。マンチェスターはイギリス北西部に位置し、古くは産業革命発祥の地の一つであり工業都市として有名で、現在では商業都市として、さらには高等教育・メディア・芸術の盛んな都市として知られています。マンチェスター大学はこれまでに多くのノーベル賞受賞者を輩出するなどイギリスでも屈指の名門大学です。同大学の英語プログラムでは通常の英語プログラムに加え、インターンシップも経験します。

3）教養文化セミナー

教養文化セミナーは昨年度から実施されている行事で、異文化理解を目的としています。今年は一年生と二年生を対象として実施し、一年生は 6 月 28 日にオペラ「ラ・チェネレントラ（シンデレラ）」を、そして二年生は 10 月 11 日に歌舞伎「顔見世」を鑑賞しました。

多くの学生にとって、オペラや歌舞伎鑑賞は縁遠いものという印象だったようですが、実際に本物を見てその迫力に魅力を感じている様子でした。

写真：オペラ鑑賞（6 月 28 日）

写真（奥田先生）：保護者との面談

4）教育懇談会

10 月 18 日に教育懇談会を開催しました。一年生の保護者を対象としたものでしたが、今回は現代国際学部全体で 90 名にご参加いただきました。教育懇談会では、まず全体会において現代国際学部の英語教育についての紹介等がなされ、その後、各教員がクラスアドバイザーとして担当している学生の保護者と個別面談を行いました。

5）エアライン・インターンシップ

本学科生 4 名が JAL インターンシップに参加し、8 ～ 9 月にかけて 1 名が中部国際空港、3 名が関西国際空港にて研修を受けました。最初の数日は座学で仕事の概要を学び、その後、グランドスタッフの制服を身に付けて空港で接客業務を行いました。実業務の専門的なことは行えませんでしたが、カウンター前での誘導や自動チェックイン機の案内、一人旅の子供の世話、搭乗案内アナウンス、オフィスで翌日の便の準備などグランドスタッフがかかわる仕事をかなり経験しました。

研修後は、ほとんどの学生が「1 機の飛行機が飛ぶのに、本当に沢山の人がかかわっている事を感じた。」と感想を述べています。また数名は、滑走路で出発の飛行機に手を振る経験もし、やはりその瞬間は感動すると述べていました。

6）学生通訳コンテスト

全国各地の通訳教育を行っている大学に呼びかけ、12 月 3 日に本学にて「第 2 回学生通訳コンテスト」を開催することになりました。

東京外国語大学、神戸市外国語大学、京都外国語大学、大阪大学など全国 10 大学 12 名の学生が日頃の通訳スキル鍛錬の成果を競うもので、本学の学生も 2 名参加します。講演者として国際基督教大学の小松達也教授をお迎えします。

（記事） 現代英語学科　宮 川 公 平　先生

◇最近の国際ビジネス学科の紹介とお願い◇

1）「文部科学省推薦事業」の完成年度

卒業生の皆様お元気でご活躍のことお喜び申し上げます。国際経営学部として出発からは早や14年、5年前に発展的に改組いたしました「国際ビジネス学科」での卒業生も2回目を送り出す事になります。本年度前半は、社会の経済状況が好調で、就職活動も比較的順調に進みましたので、その4年生も今はホッと一息と言ったところです。

年々卒業生の皆様の数も増え、同窓会としての機能も充実してまいりました。なにより多くの卒業生を輩出することにより交流の機会が広がって参ります。その意味では着実に同窓会の皆様の絆が深まり、また発展という文字を重ね合わせ心強い思いが致します。

在学生も非常に元気です。特に「文部科学省の推薦事業」としての学科の企画・推進は学生・スタッフともに大きな刺激を与えてくれました。これは06年度よりの3年間の継続事業として採択されたものですが、本年度はいよいよその完成年度となり、現在最終報告書の作成に取り組んでいます。事業の取り組みは総合的なものですが、基本にある狙いは、社会参加に向け学生が修学期間を最大限有効に活用し学習できるようにすることであり、本人の自覚と教育の相乗効果が不可欠です。そのためには「動機付け」と「その確認」、「学ぶべき内容」と「社会のニーズ」を明確にしていこうというものです。具体的には指導プログラムおよびフォロー体制の構築ということになるのでしょう。卒業生の皆様のご協力も頂きましたが、やはり実社会(職業)に活かせる教育の内容を多元的視角から検討することが常に我々には課せられねばならないと思います。

2）学生モニター委員会が活躍しています

この経過のなかから2007年の7月に「学生モニター委員会」が発足しました。その後、半年という時間の経過の中で大きく成長し、事業を軌道に乗せることが出来ました。しかし当初メンバーにおいて戸惑いがあったことも確かです。事業の中身、試みそのものが未知なる領域であるため、参加する学生において得られるものの姿が見えにくいことが最大の要因なのでしょう。事実、趣旨説明のため、この人ならばと、集まってもらった学生の多くが最初の段階で離脱しました。「アルバイトのため時間が取れない」・「自分のやりたいことがある」・「単位にならない」等々現代の若者の気質がそこにはあります。出発においてすでに難しい問題でした。

しかし同時に私どもに確信がありました。それはいつの時代にも若者の精神構造の中には自分を動かすエネルギーが充ち満ちているということ。心が動けば行動につながる、感動・共鳴は一瞬の動機から始まります。いまひとつは、この試みそのものが科学的手法を遵守していこうとしていることです。社会科学は社会の現象・疑問が知的関心に働きかけ、その解明のための分析、説明の整理のための要求を動機として生まれ、発展してきたのです。われれが求めるものへの取り組みはまさに生きた素材であるということに他なりません。教室では学べない実践なのです。知的本能に訴えないはずはありません。

初動への試みは二泊三日の合宿から始まりました。まず問題を浮かび上がらせるための検討(討論)からの出発です。部会にわかれ深夜まで議論が続けられ、不思議な満足感を確かめ、なんとか方向付けを模索の状態ながら見いだし船出することができました。

学生生活そのものをフィールドと受け止め、相互に自分の将来を客観的観察の対象として見つめる。熱い心と冷静な判断。見つめなければならないことは「いまなすべきことはなにか」と言うことではないでしょうか。これは学生自身の課題です。青春時代はまさに魂の躍動と飛躍の時だと思います。

「切磋琢磨」という言葉がありますが、学友が語り合うことの中から生まれる意識というものがあります。それは輝いていてこそより磨かれるのでしょう。学生が互いに語り合うこと、それぞれの理想について、時には社会のあり方や人間像について熱い思いをぶつけ合う、そのコミュニケーションを通して互いの意識の高揚につながっていくということはまさに学生時代の醍醐味ではないでしょうか。

学生モニター委員会はその「場」を創出しようとするものです。それぞれの意見が対話を通して仲間の意識の中に働きかけていく、対話の中から共通の意識として昇華される、そしてともに進化していこう。それが学友のひいては自分の未知の可能性を切り開く一つの契機(moment)に繋がるのではないかと考えています。メンバーはその橋渡しとしての役割を担い、学生自らの手で学びの場を、学生自らの置かれた位置づけの理解を伴う、自覚をもったブリリアントな場へと質的に変革していこうとしているのです。

なすべき仕事は沢山あります。アンケートによる調査・研究も委員会事業の一環として企画されました。それはわれわれ現代の学生が直面する問題をさまざまな視点から検討・分析し、隠された意識構造を探り出し質的にも有意義な大学生活の構築へと自己啓発していこうというものです。また正しく学科の進める「教育とキャリアアップ」についての事業を理解することは有効な学生生活の創造にも繋がるのではないかとの期待もかかります。

2007年10月には現代国際学部・国際ビジネス学科の学生（総数：270人）を対象にした無記名方式によるアンケートでは全体回収率65％で整理しました。結果は報告書としてまとめられましたが「入学時の英語教育への関心から学年の進行に伴う変化」、「授業への参加意識」、「職業への取り組み」等興味深い結果が得られました。

試行錯誤ながらこれらは「報告書」として纏められています。随分苦労したでしょうがメンバーのそれぞれにも多くの還元が有ったはずです。ここから多くの課題がまた新たに組み立てられます。これをどのように受け止め発展させるか、次の楽しみがでてまいりました。

メンバーは気づいていないかも知れませんが、その成長は私どもには驚きに近いものです。人間(生命)は一瞬の光をあびて変わるのです。変化のチャンス。何より大切なことは「自分自身の意識」だと思います。次年度はもっとこの輪を広げていきたいものです。

国際ビジネス学科は専門知識の研究を中心としながら人間として豊かな感性、価値観を培養する場。だからこそ、しばしこの知的世界を純粋に味わって欲しいものです。楽しみながらそして自分の能力を鍛えていく、世界が広がっていく。学生時代の妙味と言えないでしょうか。

（記事） 国際ビジネス学科長　稲福 善男 教授

NACIONスカラーシップ

NACION スカラーシップとは、在校生への支援を目的とした奨学金制度です。何かを学ぼうとしている学生で金銭的な支援者を必要としている学生を募集し、その内容によって奨学金を一人あたり上限 20 万円まで支給します。

2008 年度の募集には 7 名の学生より応募があり、役員会にて書類審査と面接を行って、その内 4 名の学生へ下記のとおり奨学金を支給することと決定しました。

同窓会は今後も、何かを学びたくても金銭的な理由でそれを断念しているような学生を支援していきたいと考えます。皆様から頂戴した寄付金の一部もこの奨学金として活用したいと考えますので、もっと多くの学生に奨学金を支給できるよう、益々のご支援をよろしくお願い致します。

2008 年度受給者

浅見　仁美　［現代英語学科 4 年］

奨学金額：8 万円
活動内容：「時速 15km の世界で日本を知る」
外国人に日本を正しく伝えたいという目的で自転車で日本各地を旅し、
自分の目で日本を知る。

森　愛三美　［現代英語学科 3 年］

奨学金額：8 万円
活動内容：「エアラインスクールへの通学」
名外大への入学以前からの夢である客室乗務員になることを目的に
エアラインスクールで専門的に学ぶ。

鈴木　恵美　［現代英語学科 4 年］

奨学金額：7 万円
活動内容：「卒業論文執筆のための地域研究」
ストリートチルドレンの支援を卒業論文のテーマとし、
より深く現状を理解するためにメキシコの NGO 活動に参加して経験を深める。

斎藤　智慧　［現代英語学科 3 年］

奨学金額：7 万円
活動内容：「地域レベルでの国際交流研究」
刈谷市国際交流協会にボランティアとして所属しており、
その関係でカナダのミササガ市を訪問できる機会が与えられた。
他国の外国人支援の実態を知り、地域レベルでの国際交流とは何かを学ぶ。

スカラーシップ受給者活動報告

活動報告

桂　麻莉絵　［現代英語学科 4 年（2007 年度受給）］

私は 2007 年に同窓会から奨学金をいただき、次のように活動を行いました。

まず、学内で開講された秘書検定準 1 級対策講座を受講し、9 月と 10 月は毎週土曜日にその授業を受講しました。秘書検定を受けるのも、それについて勉強するのも初めてでしたので、夏休み前にテキスト等を購入して休み中に 2 級の勉強を進めました。講座の時間以外でも、時間のある時は図書館などで復習をし、筆記試験前の 1 週間は図書館や家にこもってみっちり勉強しました。その結果、11 月に 2 級と準 1 級の筆記試験を受け、両方とも合格することができました。その後、東海秘書クラブの主催で開講されている秘書検定準 1 級面接対策講座を受講し、1 月の準 1 級の面接試験も無事、合格することができました。

更に、家庭の事情で続けられない予定だった英会話（イーオン）も、奨学金のお陰で今年も無事続けることができました。英会話は大学 2 年生の春、オーストラリアでの 1 ヶ月間のホームステイ研修から帰ってきた後に始め、最初は週 2 回で日常会話レベルから始まり、現在は週に 1 回通っており、外国人教師のもと、ビジネス会話の初級レベルを勉強しております。現在所属しているクラスはグループレッスンで生徒の人数が多く、その分授業料が少し安めなのですが、様々な分野の人々とコミュニケーションをとりながら楽しく学ぶことができるので、英会話以上に学ぶことも多いと感じています。

このように同窓会から奨学金という形でご支援をいただき、将来に向けていろいろなことを学ぶことができました。これらは引き続き深く学んでいこうと思っていますし、就職するときや就職した後にも役立てたいと思います。このような奨学金を必要としている学生はもっとたくさんいると思いますので、今後もぜひご支援を続けていただければと思います。ご支援、本当にありがとうございました。

（2008 年 3 月 記）

東北 - 北海道　自転車の旅

浅見 仁美　［現代英語学科４年（2008 年度受給）］

期間：2008 年 8 月 11 日～ 2008 年 9 月 7 日（28 日間）
旅費：約 9 万円　（内訳）宿泊費：約 1 万円（主にテントを使用）　フェリー運賃：約 2 万円（仙台港－苫小牧港－名古屋港）
飲食費：約 5 万円　その他：約 1 万円（自転車の修理費など）

旅以前

今回この旅をするにあたって、一つの目的がありました。大学からの認定を受けて行ったカナダ留学では、自分が如何に日本のことを知らないかということを実感しました。そして「日本を知りたい」という強い気持ちを持つようになりました。しかし、日本を知りたいというただ漠然としたものだけを持っていたため、今回のスカラーシップ応募後の面接時にはその方法と手段（どのように日本を知るのか）を具体的に問われた時に、はっきりと答えることができませんでした。そして、面接終了後から旅が始まるまでの間、その手段を深く考えるようになりました。

方法と手段

私が「日本を知る」ために選んだ方法の一つが、多くの場所へ行き、自分自身で多くのことを見て、多くのことを日本で感じるということでした。手段としては、電車でいくことも考えましたが、自分が目で見て、興味を持った場所により行き易く、より現地の方々と交流できるのは自転車であると考えた結果、自転車を使うという手段を選びました。

道中

旅の中では、多くの出会いがありました。そして多くの出会いに助けられました。中でも印象的であった出会いの一部をここで紹介したいと思います。

旅中は、なるべく旅費を抑えたかったため、主に寝床は自転車で持ち運びができる簡易テントの中でした。北海道を周っている間、旅以前にはキャンプ場やテントを張れるような場所をなるべく多く調べておいたものの、夜遅くまで走っても場所が見つからないということが何度かありました。そんな時に、たまたま立ち寄ったラーメン屋さんで近くにテントを張れるような所がないかと尋ねると、そのお店のおばさんが一言、「うちに泊まっていきなさい。」と言ってくれました。泊まらせてもらえることなど全く期待もしていなかった私はただただ驚いていました。見ず知らずの学生を泊まらせてくれるそのおばさんの優しさに感動したのと同時に、日本人は外国人に比べて、国が安全であるという意識が高いことを感じました。

泊まった次の日も、おばさんは朝ごはんを食べない習慣なのにも拘らず、わざわざ朝ごはんを作ってくれて、私が起きるのを待ってくれていました。ここまでしてくれたおばさんに何かできないかと思い、ラーメン屋を一日手伝うことにしました。そしてお店を手伝っている間に、お店の常連である農家のおじさんが声をかけてくれました。農家に以前から興味もあり、おじさんは「明日遊びに来ればいい。」と言ってくれたので、見学に行くことになりました。

ラーメン屋を手伝った次の日、おじさんの農家に行くと、土地はただただ広く、農家のイメージであった臭さは全くありませんでした。おじさんは農家の仕組み、放牧の仕方、牛乳の作り方、どれくらいの費用がかかるのか、なぜ匂いがないのかなど私が質問すること全てに答えてくれました。そして、絞りたての牛乳をご馳走してくれました。

昨日まで全く知らない学生を相手にそこまで親切になれるおじさん、ラーメン屋のおばさんには驚きの反面、感謝でいっぱいでした。

旅を終えて

多くの人達の支えがあってこの旅を終えることができました。海外に留学して、海外の良い所をたくさん知りました。そして帰国後は、「どうして海外ではああなのに、なんで日本は・・。」と悲観的に物事を捉えてしまうことが多々あったように思います。しかし今回この旅を終えて、「日本も捨てたもんじゃない。日本にだって海外に誇れるものはたくさんあるんだ。」ということを実感しました。

今回は、日本を知るという大きな目標を持って出たものの、「日本」を本当の意味で知ることができたとは思っていません。2009 年春には、九州、沖縄を自転車で周る予定です。そして、日本の良い所をもっとたくさん見つけたいと思っています。私の「日本を知る旅」はまだまだ続きます。

余談

この旅をする中で、寝床はキャンプ場以外に公園もありました。そして、多くの公園でゴミが多く落ちていました。夏ということもあり、花火の後や、アルコールの缶が捨ててあるのが目立ちました。私が気にしていなかったのかもしれませんが、カナダでは公園でごみが落ちているのをあまり目にしなかったように思います。日本ではなぜそのような状況があるのか不思議でなりませんでした。そのような場で無責任な行動が多すぎるように感じました。そして名古屋に帰ってきてからも、多くのゴミが道端や公園に落ちているのを気にするようになりました。旅以前からも富士山のゴミ問題には興味がありましたが、今後何かゴミ問題改善のために活動できればと考えています。

今回、この旅を多くの方から応援していただきました。そして、旅で出会った多くの方々に助けていただきました。本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

※ 2008 年度受給者のうち他 3 名の報告は次号にて掲載します。

「年の瀬にあたって」

同窓会長　中村　憲広
株式会社メモリー代表取締役社長

2008年も残すところ、あとわずかとなりました。
振り返ってみると、今年は経済においても歴史においても色々なことがありました。

経済成長著しい北京では、オリンピックが開催され数多くの日本人選手が活躍されました。
トヨタ自動車が過去最高益と自動車販売台数世界一になりながらも、
その栄華は1年もしないうちに販売不振に苦しんでいます。
国技である相撲協会の大麻疑惑や有名大学学生の大麻問題、鉄鋼の高騰、石油の高騰、
リーマンショックからの金融経済の崩壊、超売り手市場から一転して、新卒内定の多数取り消し、
麻生首相就任、アメリカ初の黒人大統領の誕生などなど。

その中でも1988年に開学された我らが母校が20周年を迎えたことが、
一番の嬉しい出来事ではないでしょうか。
歴史を重ね、ますます誇れる母校になっていく名古屋外大。
卒業生も多方面に渡り、ご活躍されていると聞いております。
母校発展の為、同窓会の為に自分自身が出来ることを模索した1年でもありました。
明確な答えの出ないまま、この1年が終わろうとしておりますが、
同窓生の皆様のご協力があり私自身も役員メンバーも頑張ることが出来ました。
本当にありがとうございました。来年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。
皆さまにとって2009年が素晴らしい年でありますよう願いを込めて……。

●同窓会ロゴ●

表紙でお気付きのとおり、同窓会設立10周年を記念して昨年度末にロゴが完成しました。
会員の皆さんにもっと同窓会に親しんでもらえるよう願いを込めましたので、広くご周知いただきますようお願い致します。

NACION
Nagoya University of Foreign Studies Alumni Association

団体名「NACION」の「N」と「C」をモチーフに、円にまとめてインターナショナルなイメージにし、地球を卒業生が飛び回っているイメージを表しています。

会　計　報　告

■ 2007年度決算

（単位：円）

収入			支出		
項目	金額	摘要	項目	金額	摘要
前年度繰越金	12,753,529	三菱東京ＵＦＪ銀行	卒業行事援助	356,030	しおり、記念品、パーティー援助等
会費収入	2,340,000	2007年度卒業生234名分	総会費	659,081	案内、資料、懇親会援助等
懇親会費	57,000	懇親会参加者19名分	広報費	462,990	会報作成・送付
寄付金	20,000		奨学金	100,000	NACIONスカラーシップ
預金利息	18,912	三菱東京ＵＦＪ銀行	HP・データ管理費	129,606	会員データ管理費、HP維持管理費
			事務費	559,845	会議、交通、通信、人件費、雑費
合計	15,189,441		合計	2,267,552	

次年度繰越金額　12,921,889円

■ 2008年度予算

（単位：円）

収入			支出		
項目	金額	摘要	項目	金額	摘要
前年度繰越金	12,921,889	三菱東京ＵＦＪ銀行	卒業行事援助	350,000	しおり、記念品、パーティー援助等
会費収入	2,300,000	2008年度卒業生（見込み）	総会費	600,000	案内、資料、懇親会援助等
預金利息	20,000	三菱東京ＵＦＪ銀行（見込み）	広報費	450,000	会報作成・送付
			奨学金	300,000	NACIONスカラーシップ
			HP・データ管理費	200,000	会員データ管理費、HP維持管理費
			事務費	500,000	会議、交通、通信、人件費、雑費
			外大記念品	241,500	20周年記念品（絵画）贈呈
			予備費	50,000	
合計	15,241,889		合計	2,691,500	

次年度繰越予定金額　12,550,389円

同窓会クイズ

母校を思い出して、クイズに挑戦！

全問正解された方の中から抽選で 10 名様に同窓会の素敵なロゴ入りＴシャツ＆コットンバッグをセットでプレゼント。

①右記 3 問の答え、②学籍番号、③氏名、④住所、⑤電話番号、⑥Ｔシャツのサイズ（メンズ M、L ／レディース S、M）を記入して、ハガキか Email にて下記までお送り下さい。

多数のご応募をお待ちしております。

（プレゼント商品の色は事務局におまかせください。）

応 募 先：〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学
国際経営学部・現代国際学部 同窓会事務局
Email : info@nacion.jp

応募締切：2009 年 1 月 30 日（金）必着

1 問 名古屋外国語大学が誕生したのはいつ？

① 1954 年　② 1988 年　③ 2001 年

2 問 名外大校歌の最初１フレーズの歌詞は？

① ウ～ ワンワンワン　ウ～ チンチンチン
② 雪やこんこ　あられやこんこ
③ 白亜の学舎　緑葉に映え

3 問 名外大図書館前の銅像はどれ？

①

②

③

当選者とクイズの答えは、2009 年 2 月 1 日以降にホームページ上で発表します。

会報及び HP への掲載募集

メッセージやイベント情報など、同窓会員へ伝えたい事を無料で掲載しますので、お気軽にご連絡下さい。

注意／個人･団体への誹謗中傷や宗教その他の勧誘目的など、法律に違反する内容や同窓会報に相応しくないと判断する内容は掲載をお断りする場合がありますので、ご了承ください。

広告協賛企業募集

会報やホームページへの広告を募集します。会員ご自身のご商売、お勤めの会社の PR にご利用いただけます。

有料広告となっており、広告費は在校生への奨学金、同窓生のキャリアアップ支援費として活用いたします。

広告方法、利用スペースによって金額が異なりますので、一度同窓会事務局へお問い合わせ下さい。

会員情報変更届

確実に案内等が届くよう、住所などの変更は速やかにご連絡下さい。

変更は NUFS⁺ の「卒業後の住所変更」よりご連絡下さい。郵送・FAX・Email でも受付けます。

【 NUFS⁺ 】
http://www.nufsplus.net

同窓会への ご連絡はこちら

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学
国際経営学部・現代国際学部同窓会事務局
TEL: 0561-74-1111　FAX: 0561-75-1723
Email: info@nacion.jp

同窓会へ寄付をお願いします。

同窓会事務局では、在校生への奨学金の増額や同窓生のキャリアアップ支援事業を活性化すべく様々な案を検討しておりますが、経費の問題で実現できずにいる企画が多々あります。

今後は同窓生及び在校生への支援をますます拡大していきたいと考えますので、ご賛同いただける会員および関係の皆さまからぜひご寄付を賜りたくお願い申し上げます。寄付金は、主に以下の目的のために活用いたします。

1．NACION スカラーシップの奨学金（在校生への支援）
2．同窓生キャリアアップ支援事業の運営費（キャリアアップ講座、情報交換会など）

尚、ご協力いただきました方々は会報誌にお名前と回生を随時掲載させていただきますのでご了承下さい。

振込方法

千円を一口として、下記の銀行口座までお振込み下さい。（何口でも構いません。）
その際、ご本人確認のために振込者名に学籍番号と氏名をご入力いただくか、
お振込みいただいた旨を電話、メール等にて同窓会事務局までご連絡ください。

振 込 先

三菱東京 UFJ 銀行　栄町支店　普通 1360405
口座名義：名古屋外国語大学国際経営学部同窓会

2008 年 1 月～ 11 月までの寄付者

水 谷　修（名古屋外国語大学長、同窓会名誉会長）
浅井 恭子（1 期生）
畑　　恵（2 期生）

ご支援、ありがとうございます。

役　員

中村憲広（会長・2 期）　岩出朋子（副会長・2 期）　畑　　恵（副会長・2 期）　浅井恭子（事務局長・1 期）　浅野万里子（書記・5 期）
吉田正幸（書記・6 期）　瀧　浩史（会計・1 期）　近藤健太（会計・8 期）　石井恵美子（会計監査・1 期）　登立洋平（会計監査・10 期）

幹　事

飯吉美絵（1）　太田友和（1）　加藤優一（1）　神谷理恵（1）　代田喜之（1）　鈴木千賀（1）　鈴木裕介（1）　武原啓子（1）
中川大輔（1）　中野桃子（1）　服部貴子（1）　松原一仁（1）　山口千恵（1）　山崎　豊（1）　浅野享洋（2）　伊藤真彦（2）
大井健一（2）　岡崎由美（2）　原万里子（2）　平林順子（2）　森川浩希（2）　八木正人（2）　荒川誠治（3）　伊藤　望（3）
鳥居佳夫（3）　平井由香（3）　犬飼尚樹（4）　田中文彦（4）　藤田達也（4）　後藤直樹（5）　潮田裕稔（5）　吉田和代（5）
伊藤太一（6）　内門はるか（6）　大石彰則（6）　城月雅大（6）　井上高志（7）　祖父江匡記（7）　竹内千晶（7）　田中潤一（7）
徳山正康（7）　楊　　佳（7）　伊藤浩明（8）　藤田浩史（8）　水野裕也（8）　新宮好洋（9）　石井和弥（10）　岡本　愛（10）
坪井祐一（10）　豊田　匡（現 1）　松井麻美（現 1）

沿　革

２００８年１２月　同窓会報「NACION paper」第５号発行
２００８年　６月　慶弔等に関する規程の施行
２００８年　５月　第４回総会及び懇親会開催
２００８年　４月　同窓会名称を「名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会」（通称：NACION）へ改称
２００８年　１月　同窓会報「NACION paper」第４号発行
２００７年　７月　第３回総会及び懇親会開催
２００７年　５月　同窓会報「NACION paper」第３号発行
２００７年　３月　個人情報保護に関する規程の施行
２００６年１２月　同窓会 SNS サイト「NUFS+」開設
２００６年１１月　同窓会ホームページ「NACION」開設
２００６年１０月　同窓会報「NACION paper」第２号発行
２００６年　７月　第２回総会及び懇親会開催
２００６年　３月　国際経営学部同窓会報創刊
２００５年１２月　第１回総会及び懇親会開催
２００４年１０月　国際経営学部同窓会名簿発刊
２００４年　４月　現代国際学部 (現代英語学科・国際ビジネス学科) 開設
１９９８年　３月　第１期生卒業、国際経営学部同窓会発足
１９９４年　４月　国際経営学部（国際経営学科）開設
１９８８年　４月　名古屋外国語大学創設

会　　則

第１条　本会は、名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会と称する。
第２条　本会は、名古屋外国語大学内に事務局を置く。
本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的とする。
第３条　本会は、前条の目的を達成するため、次の各号の事業を行う。
(1) 会員の親睦に関する事業
(2) 会員名簿の発行
(3) その他前条の目的を達成するための必要な事業
第４条　本会は、本学部の卒業生をもって構成する。
第５条　本会には、次の役員を置く。
(1) 会　　長１名　(2) 副 会 長２名　(3) 事務局長１名
(4) 会　　計２名　(5) 会計監査２名　(6) 書　　記２名
第６条　本会に卒業年次毎に若干名の幹事を置く。
第７条　本会に名誉会長を置くことができる。名誉会長には学長を推戴する。
第８条　本会に顧問を置くことができる。顧問は役員会にて推薦する。
第10条　会長・副会長は総会にて選出し、その他の役員は会長が幹事及び会員の中から委嘱する。
2. 幹事となる候補者は、ゼミで立候補若しくは推薦により選出し、会長に届け出るものとする。
第11条　役員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。
2. 欠員によって補充された役員の任期は、前任者の残任期間とする。
3. 役員は任期が満了の後でも、後任者が選出されるまで、なおその職務を行う。
4. 幹事の任期は、永続とし交代したい場合は、後任者を選出し、その旨を役員会に届け出ることとする。
第12条　役員及び幹事の職務は次のとおりとする。
(1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
(3) 事務局長は、本会の総括事務にあたる。
(4) 会計は、会計事務を担当する。
(5) 会計監査は、会計を監査し、監査報告書に意見を付し会長に提出する。
(6) 書記は、本会の庶務事項を処理し、書類を保管する。
(7) 幹事は、諸業務を分掌する。
第13条　役員会は、会長がこれを招集する。
2. 役員会の議長は、会長が行う。
3. 役員会は、役員の過半数をもって成立し、議事は出席役員の過半数をもって決する。
第14条　総会は、定期総会と臨時総会とする。
2. 定期総会は年１回開催し、臨時総会は必要な時に開催する。
3. 定期総会・臨時総会は、会長が招集する。
4. 総会には議長を置く。議長は総会で選出する。
第15条　次の事項は総会の議決を経なければならない。
(1) 会長・副会長の選任または、解任
(2) 本会の事業計画及び収支報告
(3) 本会の事業計画及び収支決算
(4) 会則の変更に関する事項
(5) その他の本会の業務に関する重要事項
第16条　総会は会員の過半数の出席で成立する。議事は出席者の過半数で決定し、賛否同数のときは議長が裁定する。欠席の場合は、委任状をもってこれに代えるものとする。
第17条　本会の経費は、会費・寄付金をもってこれに充てる。
会費は、卒業時に終身会費１万円を納付する。
第18条　会計年度は４月１日から翌年３月31日までとする。
第19条　受け入れた金品は確実な銀行に預け入れて保管する。
第20条　すでに納入した会費は、返還しない。
第21条　本会の事務を処理するため事務局に職員を置くことができる。
2. 職員は、役員会の同意を経て、会長がこれを任免する。
第22条　本会は必要と認めた地域に支部を設置することができる。
2. 支部に関する細則は、別に定める。
第23条　本会会則の変更は、役員会の議を経て総会の承認を要する。
第24条　本会則の施行について必要事項の細則は、役員会の議を経て会長が定める。
第25条　会員で住所等の変更又は氏名を改めた場合は、本会に連絡するものとする。
第26条　個人情報の保護に関する規程は別に定める。
第27条　慶弔等に関する規程は別に定める。

個人情報の保護に関する規程

第１条　この規程は、名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会会則第26条に基づき、個人情報保護について定める。
第２条　名古屋外国語大学国際経営学部･現代国際学部同窓会（以下、「当会」という。）は会の目的を遂行するにあたり、「個人情報の保護に関する法律」（個人情報保護法）に基づいて個人情報を適正に取り扱うため、下記のとおり方針を定める。
第３条　当会では、会員に関する情報を以下の目的のために利用する。
1. 会員相互の親睦活動
2. 大学との連携による事業活動
3. 在学生の支援活動
4. 印刷物の発行・発送
5. インターネットを利用した情報の発信
6. その他、同窓会活動に関連する業務
第４条　当会では、「1. 個人情報の収集・利用の目的」を達成するため、次の情報を収集する。
1. 氏名・現住所・現住所の電話番号・メールアドレス
2. 勤務先
3. 生死に関する情報
4. その他、当会の活動のために必要と判断する情報
第５条　当会は、次の場合を除き、個人情報を第三者に提供しない。
1. 会員の同意がある場合
2. 名古屋外国語大学の依頼に基づく場合
3. 各種法令に基づく場合
第６条　同窓会事務局は、会員に関する情報を常に正確で最新のものに保つよう努めるとともに、当会外への漏洩、滅失または棄損が発生しないよう万全を尽くすこととする。また、業務遂行上の必要性から外部業者に業務委託等を行う場合は、委託先等に機密保持義務を課すなどその管理･監督に努め、個人情報の流出･不正使用･改ざん等を防止する。
第７条　この規程の改正及びこの規程に関する細則は、役員会の儀を経て会長が定めることとする。

慶弔等に関する規程

第１条　この規程は、名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会会則第27条に基づき、会員及び教授（退任者含む）の慶弔等について定めるものとする。
第２条　会員及び教授（退任者含む）に対する慶弔金については次のとおり定める。これは同窓会本部へ通達のあった場合に支給することとし、通達する者の故人との関係は特に問わない。
1. 会員または教授（退任者含む）の死亡（告別式等より前の通達）香典１万円、他に弔電
2. 会員または教授（退任者含む）の死亡（告別式等から３ヶ月以内の通達）香典１万円
3. 会員または教授（退任者含む）の死亡（告別式等から３ヶ月以上経過した後の通達）　支給不可
ただし、同窓会及び母校の発展に寄与した会員及び教授（退任者含む）についてはこの限りではない。
第３条　本会の活動及び母校の発展に特に貢献した会員及び教授（退任者含む）には、感謝状と記念品を贈呈する。
第４条　この規程の改正及びこの規程に関する細則は、役員会の儀を経て会長が定めることとする。

アナタのオフィスを戦場からカクテルラウンジへ

デジタル複合機
カラーコピー・プリンター
スキャナー・ネットワーク FAX

建築 CAD
MADRIC AD-1

ホームページ・ブログ作成

弥生販売
弥生会計・弥生給与

上・下水道申請 CAD
申請くん

名古屋外国語大学出身者が代表を務めています。
今期は会社設立 11 年目になり、０８年６月に新社屋と
ライブステージ（ショールーム）を建設しました。

『ガレージから始まった世界的企業』を目指しています！

愛知県知多郡東浦町森岡上半の木 54-1
Tel:0562-83-8249　Fax:0562-83-8274
代表取締役社長　中村 憲広（2 期）

メモリー株式会社

情報システムの企画・開発・運用・保守

http://www.memoly.com

横井行政書士事務所

街の身近な法律家

～申請書類の相談・作成・提出など、お気軽にご相談ください～

建築業許可関係
- 建設業許可申請
- 経営規模等評価申請
- 入札参加資格申請 etc

独立開業許可
- 飲食店営業許可申請
- 廃棄物処理業許可申請
- 風俗営業許可申請 etc

そ の 他
- 車庫証明
- 権利義務、事実証明書
- 法人設立関係 etc

愛知県行政書士会会員
名古屋商工会議所会員

事務所／〒451－0043名古屋市西区新道一丁目3番20号
TEL 052－569－7311　FAX 052－586－8188
E-mail　yokoizimusho@mtf.biglobe.ne.jp
浅野（横井）万里子［5期］

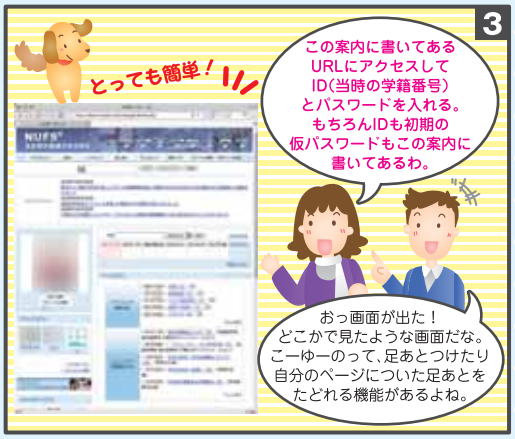
名古屋外国語大学同窓会オフィシャルサイト

「NUFS+」（なふすぷらす）ご登録のお願い

既にご周知のとおり、会員名簿（冊子）は個人情報保護の観点から現在は発行しておりませんが、卒業生同士の連絡手段として再発行を望む声があることを受け、名簿の代わりとすべく 2006 年に名古屋外国語大学同窓会（外国語学部・国際経営学部・現代国際学部）にてオフィシャル SNS サイト「NUFS+」を開設しました。今後、この「NUFS+」が唯一の会員名簿となりますので、皆様には是非ご登録いただき、ご活用いただきますようお願い申し上げます。既に会員の皆さまには ID とパスワードを送付しておりますが、ご自身の ID とパスワードが不明の方はお気軽に同窓会事務局までお問い合わせください。→ info@nacion.jp

同窓会の名簿は、もう発行されません！！

※1　一般的に普及しているSNS（ソーシャルネットワーキングサービス／Social Networking Service）サイトとは違い、同窓生限定で本名がわかり、安心して情報を発信できます。



※2　ただし、初めて利用する際の初期登録はパソコンから行ってください。

「NUFS+」（なふすぷらす）オフィシャルサイトURL

http://www.nufsplus.net/login/welcome.php

☆ 携帯電話からもアクセス可 ☆

※ただし、初めて利用する際の初期登録はパソコンから行ってください。

※ トップページの画面が真っ白となり何も表示されない、とのお問い合わせをいただいております。
もしこの現象が発生したら、ブラウザーのメニューから【表示】→【エンコード】→【unicode】の操作を行ってください。

2008年度総会・懇親会
5月30日(土)開催決定

ナント!!

2009年は会員全員、参加無料！

会場は母校、名古屋外国語大学。

懐かしい先生、懐かしい場所に出逢えるチャンスです。
もちろん、余興やお楽しみ大抽選会も行います。
皆様ふるってご参加ください。
詳細な案内は後日送付しますので、お楽しみに！！

懇親会での余興にご出演いただける方は、お気軽に同窓会本部、もしくは役員･幹事までご連絡下さい。
みんなで懇親会を盛り上げましょう！

抽選会担当者より

毎回、最高に盛り上がる大抽選会！！
２００９年は全員無料参加の年。例年以上にたくさんの会員の皆さんが参加されるだろうということで、気合を入れて現在景品を選定中。リクエストがあれば早めにお知らせください。今回の懇親会を逃したら後悔するかも……。